

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人社団 紀洋会	代表者	岡本 のぶ子	法人・事業所の特徴	利用者の第二の我が家となるように、家庭的な雰囲気や居心地よく安らぎの場を提供することを心がけている。眺めの良い明るい開放的な立地にあり、幼稚園や小学校と隣接している為、登下校の見守り活動や行事を通して地域との関わりを大切にしている。利用者のリクエストや季節に合わせた手作りの料理を提供している。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 けやきの郷	管理者	橋本 明美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	0人	1人	1人	0人	2人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	日々更新される申送り事項や必要な情報を、職員全員が正確に把握し、適切にサービス提供が行えるようにする。そのために、申送り回覧等に全員の確認チェック欄を設け伝達チェックを行っていく。	申し送り回覧等に全員の確認チェック欄を設け伝達することができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内の介護業務以外にも目を向けて、毎回振り返り改善していくのは大変ではないか。出来ていることは「できている」でよいのではないか。 ・事業所自己評価に取り組んだ職員が常勤、非常勤かどうかはわからない。どんな職員が働いているかわかるように館内に掲示してはどうか。 ・新規の人が重なって顔と名前が一致しないのであれば、利用者の了解を得て写真をとらせてもらい、職員で共有されてはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・館内の掲示物で職員紹介のコーナーを作り、職員の顔と名前を覚えてもらう ・申し送り回覧等に捺印欄を作り声かけ係を作るなど実行できた。次年度も継続していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	清潔で明るく開放的な事業所になるように、館内の清掃や屋外の景観を損ねないように管理していく。	<p>フロアからの四季の景色が眺められ外からの光が差し込むように、外から中の様子がわかるように、日中はカーテンを開け開放的に過ごしている。</p> <p>季節の植物を花壇に植え、地域の方に手伝ってもらいながら育てている。</p> <p>園芸や季節の飾りができる人（利用者）に偏ってしまっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開放的で明るく、清潔である。 ・地域の方やボランティアがよく出入りされている。 ・家族も忘れ物を届けに来所するなど気軽に立ち寄っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸や季節の飾り作りを介護度にあわせて作業してもらえるよう工夫する。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>地域活動のお手伝いなどで参加する事により、地域とのかかわりを深めていき、相談しやすい関係を作っていく。 広報誌を家族配布用と地域配布用に分けて作成する。家族配布用には、利用者懇談会の内容や、運営に関する内容を掲載することで、より細かな事業所の様子を発信していく。</p>	<p>認知症カフェの立ち上げに携わることができ、他地区の民生委員や地域の人との関係を深め繋がりができた。 広報誌は分けて発行できなかったが、利用者懇談会の内容は広報に掲載した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌は読み手によって内容を変えるのもよいが、分けて発行することは負担だと思う。現状の毎月の写真を載せて発行するスタイルが良い。 ・地域になじんでいる ・地域の防災班と定期的に AED と防災の勉強会を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌は毎月の旬な写真と情報を発信していく。 ・利用者懇談会を定期的に開催し、利用者の意見に耳を傾け運営に生かしていく。
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>地域のふれあいサロンや作品展など地域の行事に、継続して参加する。 又、広報誌に利用者の住む地域行事参加のお手伝いをさせていただく旨の内容を掲載する。</p>	<p>ふれあいサロンや作品展に参加している。サロン参加は利用者の楽しみになっており、作品展出品に向け職員も利用者も目標をもって制作することができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者それぞれの地域に出向くことは難しい。けやき台にある事業所なのだから、けやき台の地域と交流できているからよいのではないかと。隣接しているすずかけ台やゆりのき台なども、認知症カフェやふれあいサロンなどで交流している。 ・利用者以外の方とのかかわりも求められて事業所に負担だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展の出展に向けて製作を続けることや広報誌に地域行事参加のお手伝いの案内掲載を継続して地域との交流を希望する方がおられたら、積極的にすすめていく。 また、ご自身の住む地域との関わりをひらえるようにアンテナを張っていく。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>運営推進会議で、地域の情報を共有していき、かつ事業所で新しい取り組みをはじめようとする時は、会議の場で報告する。</p>	<p>困難事例の支援経過などを報告し、助言をもらう場として活用している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の情報を共有し、会議の場で報告できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も継続していく。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>地域の防災訓練に、まずはスタッフが参加することで、災害時の避難方法を習得する。</p>	<p>スタッフの参加はできなかったが、事業所として安否確認シートを玄関先に出し訓練に参加している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災委員と年に二回、AEDの講習と防災の勉強会を行っている。その際に避難訓練に参加してもらっている。 ・三田市と災害協定を結んだことは知っている。 ・災害時たくさんの人を受け入れる設備はないと思われる。まずは利用者の安全を確保して、余力があれば地域の受入を検討したらよいのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外の倉庫におむつ類を備蓄しているが、倉庫の鍵は事業所内にある。鍵の置き場所を変更し事業所に入らずに倉庫を開けられるようにする。 ・地域の防災委員との AED 講習と防災の勉強会、避難訓練は継続して行ない、地域の防災訓練にも参加する。